



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

四旬節第2主日 C年(2022年3月13日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

わたしたちの^{みらい}未来の^{すがた}姿

第一朗読：創世記 15章5—12、17—18節

「あなたにこの土地を^{あた}与える」と言ってアブラハムと^{やくそく}約束する(契約を^{けいやく}結ぶ)神。

第二朗読：フィリピの信徒への手紙 3章20—4章1節

「私たちの^{いや}卑しい体を、ご自分の^{えいこう}栄光ある体と同じ形に^か変えてくださる」
そこにわたしたちの未来の姿がある。

福音朗読：ルカによる福音書 9章28b—36節

「これはわたしの子…これに^き聞け」
イエスの声に耳を^{かたむ}傾け、^{したが}従って、わたしたちは栄光に^{かがや}輝くイエスと同じ姿に変えられていく。

福音朗読からことばを味わいましょう。

31節にある「エルサレムで^と遂げようとしておられる^{さいご}最期について」の箇所^{かしよ}で「最期」と訳された単語はギリシア語でエクソドスです。これは「旅立ち、出発」の意味^{いみ}があります。七十人訳聖書(旧約聖書のギリシア語訳)ではエクソドスは出エジプトの出来事^{しゅつ}を指しています。しかし、エクソドスに「死」の意味を当てはめることもありました(知3章2節、7章6節参照)。ですから、ここでのエクソドスはイエスさまの死を意味するでしょう。

しかし、「栄光」(ドクサ)という表現が前後に見られますので、イエスさまが十字架の死を^す過ぎ越して、復活^ごなさり、天に向かう「旅立ち」の意味も^{ふく}含まれると思います。イエスさまは「わたしは今日も明日も、その次の日も自分の道^{すす}を進まなければならない」(ルカ13章33節)とお

しゃいます。イエスさまの十字架でのエクソドスは「死」であると同時に、栄光への旅立ちでもあるのです。

さらに、33節のペトロのことは「仮小屋を三つ建てましょう」を味わいたいです。フランス語訳は「仮の庵」となっています。「仮小屋」は、幕屋を意味するスケナーが使われています。ペトロはイエスさま、モーセとエリアの三人を地上に引き留めようと考えたのでしょうか。ということは31節で三人が語りあっていた「エクソドス」、すなわち「旅立ち、出発」についてはペトロは聞いていなかったこととなります。あるいは理解していなかったこととなります。

しかし、イエスさまは「選ばれた者」(35節)ですから、地上からの栄光を得るのではなく、神さまの想いを忠実に果たして栄光を得るのです。神さまはイエスさまに華々しい栄光は与えず、みじめな十字架の栄光を担わせるのです。そのためにイエスさまはエルサレムへと向かいます。「これに聞け」(35節)という神さまの指示は、仮小屋を建てて立ち止まるのではなく、イエスさまの後に従ってエルサレムに向かいなさい、そしてイエスさまのことに従いなさいという招きのことばだったのです。

説教：イエスさまの栄光の姿

イエスさまは、近い将来ご自分が遭遇する受難と十字架の死につまずいてしまわないために、本当の姿、すなわち「神の子」の姿をペトロたち三人にお示しになられたのでしょうか。しかし、三人は眠くて眠くて、イエスさまの想いが分かりませんでした。

わたしは長い間、服が真っ白に輝いたイエスさまが栄光のお姿だと考えてきました。そして、わたしたちもいつかイエスさまと同じように栄光の姿へと変えていただけるのだと思ってきました。しかし、もしかしたらイエスさまの栄光のお姿とは十字架に架けられたお姿のことではないかと黙想するようになりました。うまく説明できませんが、この世での「卑しい体」(第二朗読)を備えたわたしたちにとって、目にすることができるものといえば、十字架のイエスさまだけからです。わたしたちが人生のある場面で十字架のイエスさまのようにさせられるとき、神の栄光へと近づくのでしょうか。